

「なぎさ海道」アマモ場再生プロジェクト 平成28年度の活動報告

●相生市・那波港

・アマモの種まき会（2015.10.29、相生市、総合福祉会館）

今日は相生市的那波小学校、相生小学校のアマモの種まき会です。

雨が今にも降りそうなどんよりした天気で、雨の場合、種まきは会館ロビーでビニールシートを敷いて行うとのこと。しかし、それでは後始末が大変です。時間があつたので、雨の場合、近くに適当な場所がないか見て回ると、会館の前に雨露を防ぐ絶好の場所がありました！すぐに、主催者の相生湾自然再生学習会議の松村会長と前会長の関根さんに連絡し、その所有者に使用のお願いをして頂きました。快く“いいですよ。お使いください。”と、所有者の方から了解を得ました。ありがとうございます！

昨年と同じく、当方から「アマモについて」、玉木先生から「海の生き物について」説明をさせていただき、その後、アマモの種まきを行いました。



素材を配置



素材一式



アマモの種まき(左:子ども達、右:相生湾自然再生学習会議)



記念写真(那波小学校、相生小学校)

●姫路市・白浜海岸

・アマモ種子の採取（2016.6.14、姫路市、白浜小学校）

今日は「一日ワクワクデー」で、午前中は小学校の体育館での事前学習と海岸に移動しての地曳網です。



榎ノリス・白井風香さんの「のぞいてみよう白浜の海」

事前学習と地曳網が終わり、午前の部は終了です。

そして、昼休みも終わり、子ども達は水着に着替えアマモ種子採取です。

事前に胴長で歩き回りましたが、子ども達が安全に動き回れる水深1mほどの海底にはアマモが見られません。砂が堆積し、海底全体の水深が浅くなっている？その浅い海底には、種子から発芽・生育した30cmほどのアマモが疎らに見られるだけで、花枝は見られません。

そこで、午前中にしたアマモの説明を思い出してもらい、子ども達にはアマモ種子採取というよりは少し早い海開きの気持ちで探してもらうことに。ところが、アマモの花枝が潮干狩り場を仕切る漁網に絡んでいたりと、流れ藻で海面を漂っています。子ども達が“アマモの花枝はこれですか？”と採取したものをみせ、尋ねますが、最初のうちはほとんどが栄養株で葉っぱだけでしたが、次第に正解が増え、一人一株は採取できたようです。これで、今年の種まきの種子は確保できました！



日射しが強く、気分は“海開き”？



アマモ花枝はこれかな？



目標“一人一株”ほぼ達成！これで今年の種子は大丈夫！

子ども達は身体を洗って着替えを終えて整列。子ども達の代表からお礼の言葉を頂きました。

天候にも恵まれ、アマモの生育分布域が変わってきたことを除けば、全て順調に進み、ホッとしました。

・アマモの種まき会 (2016.10.19、姫路市、白浜小学校)

今年は先生方が頑張ってくれました。例年通り兵庫グリーンサポーターの玉木哲也先生に事前学習をお願いしたのですが、都合がつかないということで、先生方に相談したところ、先生方でこれまでの環境学習の復習をされるとのこと。学習内容をポスターにして、クイズ形式で成果をみるとのことでした。



先生方による 事前学習「みんなの海の生きものをみつけよう！」

そして、当方から「アマモの育て方」について説明し、運動場でアマモの種まきです。



「アマモの育て方」について

みんな、先程の説明をよく聞いて(見て)いてくれたのか、アマモの種まきは順調です。

そして、最後に記念写真を撮り、無事「アマモの種まき会」を終わりました。



運動場で素材を配置



アマモの種まき



記念写真(白浜小学校)

一人ひとりが種をまいたペットボトルがどんな場所に置かれているか、また、順調に発芽、生育しているかをみるため、翌年 1 月 10 日、白浜小学校に行きました。ペットボトルは 1 クラスごとにまとめられ、自分たちの教室前の廊下に置かれていました。みると、殆どのボトルに白い針か緑の葉がのぞいていました。これで安心です！



3-1 組



3-2 組



3-3 組



3-4 組

・交流会およびアマモ苗移植会 (2017.3.2、姫路市 REX体育館、白浜海岸)

今日は姫路市の白浜小学校、相生市的那波小学校および相生小学校の3年生児童が、一年間の環境学習の成果を発表する交流会および10月にアマモの種まきをして発芽、生育したアマモ苗を白浜海岸に移植する合同移植会です。この中で、当NPOは子どもたちが育てたアマモの移植、そして地曳網によるアマモ場の生き物調査を行ないます。

一日の予定は晴天、小雨、雨天で変わりますが、「昨日と違い、雨、風も心配はない」と晴天での予定で、7時半に白浜海岸に荷物を降ろし、白浜小学校にアマモ苗を引取りに。ところが、学年主任の先生から、「午後に雷注意報が出るようで、地曳網の予定を午後から朝一番に変更します。」とのこと。雷が鳴ると、野外から屋内に避難です。なので仕方ありません。

しかし、まずはアマモ苗の取り出しです。アマモ苗を引取り、白浜海岸にあるREX体育館前で取り出します。まだ白い針(幼芽鞘)が出たばかりのものから10cmほどに生育したもののまでいろいろですが、今年はほぼ全員が発芽しています。



子ども達が育てたアマモ苗

今日一日応援して頂くダイビングスクール・(株)ノリス姫路店のボランティアダイバー5名も来られたので、姫路市漁協白浜支所の原さんに船の手配を連絡し、早速地曳網の設置です。2名のダイバーにそれぞれロープを沖合に船まで引き出してもらい、船上の網に繋ぎ、船で曳きロープをさらに海岸から250m沖合まで引き出し、網を海面に落とし込みます。網がハの字型にきちんと展張されていることをダイバーが確認して、設置完了です。

9時45分には3小学校の子供たちもREX体育館に到着し、小学校の先生ほか海のいのちクラブ、「海と空の約束プロジェクト」の西原代表と兵庫県立大学、相生湾自然再生学習会議、当NPOのスタッフが紹介され、まずはアマモ苗の引き渡しで、ダイバー3名に子ども達からポット苗が手渡されました。

そして、子ども達は白浜海岸に移動し、地曳網です。

この地曳網が終わった後、スタッフ全員昼食を摂り、次はアマモ苗の移植です。

今日移植するポット苗は全て白浜海岸で採取した種子によるもので、白浜小、那波小、相生小、そして相生湾自然再生学習会議と当NPO福田理事が岡山県下の小学校で育てたもので、総数は約260個。アマモ苗を船に積み込み、出発です。ダイバーの男性3名は船に同乗して、女性2名は海岸から泳いで移植場所に。



アマモ苗移植に出発

海岸から約 200m 沖合で、船上からアマモ苗の入った買物カゴをダイバーに渡します。ダイバーはアマモが疎らに生育している場所を選んで各自移植していきます。

約 1 時間で移植も無事終了し、ダイバーは泳いで海岸へ。そして、ダイバー 5 名揃って REX 体育館に向かい、兵庫県立大学の学生さんによる紙芝居「空と海の約束」の上演中の合間に、「みんなの育てたアマモ苗をしっかりと植えてきましたよ！」と移植報告をして頂きました。

これで当 NPO の役割は終わりです。段取り替えでバタバタしましたが、皆さんありがとうございました！

●泉佐野市-田尻町-泉南市・りんくう沿岸

・りんくうタコカーニバル14 (2016.9.4、泉南市 岡田浦漁協)

りんくう 5 協さんが持ち回りで行なっている標記カーニバル(今年は樽井)に当 NPO も出展しました。展示物は例年と同じくアマモ水槽と東播海岸で採集した魚介類の幼稚仔です。幼稚仔は江井ヶ島漁協さんにお願ひし、底引き網に入ったものをゴミなどの雑物から選り分けて集めて頂いたものです。また、例年通り福井美香さんのアマモ場に関わる塗り絵を子どもたちに描いてもらいました。

当日は雨天決行/荒天中止で、台風 12 号の進路が気になりましたが、予想に反して晴天です。

当方の展示場所は休憩所の会場入口に近い場所が割り当てられていました。



海水浴シーズンは両サイドは更衣室



壁を開放して休憩所の入り口、ここが当方の展示ブース

早速準備に取り掛かりました。まずは生き物です！目立つよう建物の端に置いたのですが、陽射しが差し込み、水温が高くなるため、漁組さんにお願ひしかち割り氷を頂き、水槽に入れて水温を保ちます。



東播海岸の生きものを水槽展示

水槽の反対側にはアマモに関わるポスターを展示しました。



アマモに関わるポスターの展示

そして、水槽横に福井美香さんの塗り絵コーナーを設け準備完了です。



福井美香さんの塗り絵コーナー

準備も済んだので、開催前ですが周りを歩くと、すでに人気のブースには長蛇の列です！



何のお店だ？お目当てはタコ！

開催挨拶があり、イベント開始です！当方も例年と同じく、家族連れの小さなお子さんたちが当ブースにも立ち寄ってくれました。



子どもは生き物が好き？



人通りはあるのに、立ち止まってくれる人は本当に少ない！



こちらは例年通りの人気です！



掲載可の方々の力作！

これで一日は慌ただしく過ぎました。

立ち寄ってくれた方々に感謝です！

そして、最後に水槽展示した生き物は以下の通りです。皆さんこれら生き物の名前を知ってますか？一度目を通して見て下さい。



